※令和３年度以前入学生用
２　地理歴史・公民

学校番号	3033

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校倫理　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	「テオーリア最新倫理資料集」（第一学習社） 「2024 大学入学共通テスト　倫理重要問題集」（実教出版）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・大学入学共通テストを目標として、西洋・東洋思想の大きな流れを理解する。
・日常の当たり前の事象に「なぜ」の視点を持つ。
・過去の思想家の考えを参考にして、これからの自分の生き方を考える。

２ 学習の到達目標

・青年期の課題と人間としてのあり方、生き方について、古今東西の諸思想の学習を通して、理解と思索を深める。
・人間の尊厳についての倫理的な考え方を学びとり、主体としての自己の確立をめざす。
・現代社会の様々な倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断力を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自己の人格の形成と他者とともに生きる主体としての自己の確立に努める意欲を持つとともに、これらに関わる現代の諸課題を考察し、人間としてのあり方生き方を考えようとする。	他者とともに生きる主体的自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて考察、探求するとともに、良識ある公民として主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを利用して、適切に選択し、他者とともに生きる主体的自己の確立に資するよう活用している。	青年期、人間としてのあり方生き方などに関わる基本的な事柄を他者とともに生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、身に付けている。
主たる評価方法	レポート・問題集	定期考査 レポート・問題集	定期考査 レポート・問題集	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

※令和３年度以前入学生用

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	青年期の課題と人間の自覚	・青年期の意義 ・青年期の課題	○ 　 　

※令和３年度以前入学生用

２学期	日本人としての自覚	・古代日本人の思想					a:日本の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心を高め、日本人の人間観、自然観、宗教観などの特徴について探求し、国際社会に生きる日本人としてのあり方生き方について考えようとしている。 b: 日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教、外来思想の受容と吸収について学習し、日本人の人間観、自然観、宗教観などの特質について多面的に考察する。また主体性のある日本人として、広い視野に立ち、公正に判断し、様々な方法で適切に表現している。 c:日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教、外来思想の受容などについて、資料集を手掛かりとする他、書物やインターネットなどを利用し、日本人の特質についての理解を深めようとしている。 d: 日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教、外来思想の受容と吸収に関して、日本人の人間観、自然観、宗教観などの特質を自己確立の課題として結びつけて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	定期考査 レポート 問題集
		1　日本の風土と人々の生活	○		○			
		2　神との関わりと道徳観		○	○	○		
		・日本の仏教思想						
		1　仏教の受容	○	○		○		
		2　鎌倉仏教		○	○	○		
		3　仏教と日本文化	○					
		・近世日本の思想						
		1　儒学の受容と朱子学		○	○	○		
		2　日本陽明学		○		○		
		3　日本的儒学の形成		○		○		
		4　国学の形成	○		○	○		
		5　民衆の思想		○	○	○		
		6　幕末の思想				○		
		・西洋思想の受容と展開				○		
	現代に生きる人間の倫理	・人間の尊厳					a:現代に生きる人間が直面する諸課題について関心を高め 、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。 b:現代の人間が直面する諸課題について、ルネサンス以降の西洋思想の形成と展開を手掛かりとして多面的・多角的に考察し、倫理的な見方を身に付け、他者と共に生きる社会において公正な判断力を身に付けている。 c:ルネサンス以降、西洋思想の展開に関して、資料集などを手掛かりとする他、書物やインターネットなどを利用し、資料を探索し、活用している。 d: ルネサンス以降、西洋思想の形成と展開について、合理的精神、民主社会の倫理、科学技術文明のあり方、人間の尊厳の自覚などについて、自己の生き方とつなげて理解し、自己実現とも関わりながら、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	定期考査 レポート 問題集
		1　ルネサンス	○		○			
		2　宗教改革		○	○	○		
		3　モラリスト		○		○		
		・科学技術と人間						
		1　近代の自然観	○					
		2　経験論と合理論	○	○	○	○		
		・民主社会と自由の実現						
		1　社会契約説		○	○	○		
		2　カント		○	○	○		
		3　ヘーゲル		○	○	○		
		・社会と個人						
		1　功利主義		○		○		
		2　社会の進歩と改善		○		○		
		3　社会主義	○	○		○		
		4　主体性の自覚						
		・人間への新たな問い	○	○	○	○		
		1　理性の深層への反省	○			○		
		2　ことばへの反省				○		

※令和３年度以前入学生用

		3 理性の働きへの反省 4 異質なものへのまなざし ・社会参加と幸福 1 生命への畏敬と非暴力の思想 2 正義と福祉 3 社会の中の人間	○	 ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○		定期考査 レポート 問題集
3学期	現代の諸課題と倫理	・生命の倫理 ・環境の倫理 ・高度情報化社会の課題		○ ○ ○	○ ○ ○		a:現代社会における倫理的課題から、関心のある問題を選択し、自己の課題とつなげて意欲的に追及している。 b:生命倫理、環境倫理、情報化社会において、自己とのかかわりについて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己のあり方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 c:現代の倫理的課題に関する諸資料をインターネットなどのメディアを通して収集し、自己の課題とつなげて活用している。 d:生命倫理、環境倫理、情報化社会の問題について、自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。